

## 日食報告

# モルディブ金環日食

秋田 勲（城陽天文台）

日食を追いかけしていると世界旅行が出来ます。次に日食がいつ、どこで起こるか人生分程度ならすぐ分かり計画が立てられます。場所によってツアーで行くこともあれば、個人で行くこともあります。

2010年1月15日にアフリカからモルディブ、インド、ミャンマー、中国などを通る今世紀最長の金環日食が起きました。昨年の7月22日の皆既日食も継続時間が今世紀最長でしたので、半年で両方見られたこととなります。今回、中心が陸地で近く最長となるモルディブを観測場所として選びました。

1月13日、2泊5日の予定でJRの始発電車に乗ると、スーツケースを持った一人の女子高校生が乗り込んできました。どこへ行くのかなと思いつつながら京都駅で私は、はるかに乗り換え関西空港に向いましたが、空港で同じ制服の高校生と出会いました。君らどこの高校でどこへ行くのと聞くと、京都の嵯峨野高校でシンガポールへ200名での修学旅行です。じゃ飛行機は、SQで11時発だね、そうです。偶然にも帰りも同じ飛行機だねつと、お互い笑ってよろしくと挨拶しておいた。私達は3人での個人旅行。

飛行機は、予定通りの時間に飛び立ち、機内は大変にぎやかである。昼食後にアナウンスが流れ、今日、誕生日を迎えられた方と新婚旅行の方が居られます。誕生日は嵯峨野高校の生徒です。新婚さんは、なんと私の座席の隣に座っているカップルである。座席に着くなり、二人とも疲れているのかぐっすり寝ている、客室乗務員に起こされ、大きなハート型のケーキとシャンパンのプレゼントにびっくりで



大喜び、私も拍手や記念写真のお手伝い。航空会社のサービスもなかなか良い。

## モルディブの海

新婚さんは、モルディブに行くといい、では乗り換えの飛行機も同じだね、いろいろ話しているうちに、15日にモルディブで金環日食が見れるのを知っていると聞くと、えーぜんぜん知りません、あなた方はラッキーですよ！

☆・モルディブ金環日食☆

ということで金環日食の話しや日食のデータを教えたり、太陽めがねを差し上げた。高校生とはシンガポールで別れ、私達は、モルディブのマレ国際空港までさらに4時間半のフライトである。空港に着陸したのは、現地時で夜の10時でした。時差は日本と4時間あり、出国して15時間も立っている。モルディブは、約1500の島からなり、空港と首都マレとは別の島にあります。

ほとんどが珊瑚礁の島で温暖化による海面上昇は深刻である。観光は、美しい海に尽きる。今頃は、乾季であるが時々スコールがくる。気温は、日中30度程度で、湿度がすこぶる高い。空港を出ると島の交通機関は、各リゾートを結ぶ20名ほど乗れるスピードボードであり、暗い海を猛スピードで飛ばす。目的地バンドス・リゾートまで約20分で到着。バンドスは、周囲2km、程度の中ぐらいの島で、大方の設備がそろっている。手続き後コテージに入ったが、天気が良かったのでさっそく南天の星を見ようと、視界の開けた場所探して30分ほど歩いていたら、自分の部屋の前に戻って来ていた。暗くてよくわからなく、どうも島を一周していたのだ。海の周りには、椰子の木が背高く、草も生い茂っていて適当な場所が見つからない。結局、コテージ



14日の日の出



14日 02h15m 沈むオリオン



15日 04h45m 南十字星

## ☆・モルディブ金環日食・☆

前の海岸に出て星を見ることにした。暗闇の海であったが街灯の光が少し差し込んでいて静かな海であった。南の首都マーレの方向は、空が少し明るい。北緯4度とあって日本でみる南天の星ボシが実に明るく高く見える。北極星は、水平線付近に雲があって見えない。椰子の木の合間に見えるカノープスや1時過ぎには南十字星が上ってきた。写真を取り3時半ごろ寝る。

日の出を見ようと5時半に起きる。昨夜は、暗くて分からなかったが遠くにいくつかの島が見える。海から昇る日の出を期待していたが、昇ってきたのは島の上で、太陽のユニークな姿は見れなかった。14日はほぼ快晴で、真っ青な空に透き通った海、シュノーケルでたくさんの

熱帯魚と戯れていた。

ときには大亀や3~5mのマンタとの出会いもあると言う。

夜は星を見るが、雲が多いので早めに寝ることにした。

15日、3時ごろ起きて、南天の星の南十字星やケンタウルス $\alpha$ 、 $\beta$ を見る。日の出は、雲が多く見えなかった。朝食を終え、すぐ準備にかかる。金環日食は、5回目であるが2年後に大阪、京都などを通る金環日食の準備で、画像の収集が目的である。今回の機材は、ED77mmとFC60mm望遠鏡で動画と静止画撮影、日食の多重撮



14日の夕日



観測機材



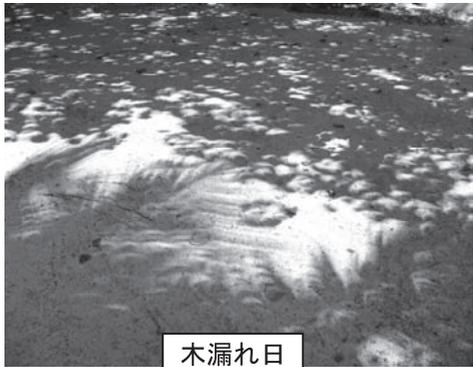
ピンホール

☆・モルディブ金環日食・☆

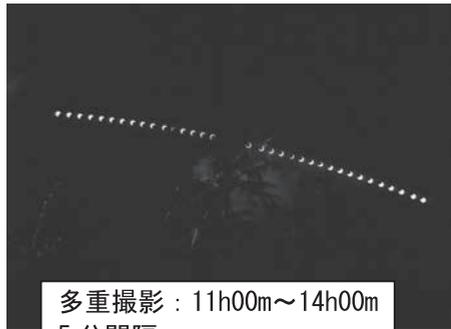
影、金環の木漏れ日、ピンホールなどである。コテージ前で望遠鏡を組み立てていると、右サイドから家族3人が5日ほど前からきているが日食は知らなかったという、左サイドのコテージから団塊の2人組は、泳ぎと日食できたという。いずれも日本人で、話をしている内に一緒にこの場所ですることになった。もう気温は、32度ぐらいあるだろうか？湿度が高く汗だくでの準備である。バンドスでの第一接触は10時15分、第二接触12時20分、第三接触12時31分、第四接触14時23分、太陽高度60数度、金環の継続時間10分49秒、日食の継続時間が延べ4時間8分と非常に長い。天気はすこぶるよさそうに見えたが、第一接触頃に東の方から黒い雲が現れるやスコールが来る、あわてて望遠鏡やカメラにシートやゴミ袋を被せたり、傘を差して機材が濡れないよう大騒ぎ、その内、10分もすると雨雲が西に去り、青空が戻る、日食は既に始まっていた。金環は、皆既ほどの醍醐味や緊張感もない、日差しは、食が進むにつれ弱くなっていくのが感じられるが、それほど暗くならない、用意してきたピンホール器材で、欠けた太陽の姿や木漏れ日などを楽しんでいると、東から黒い雲が接近するや雨が降り出した。またまた大変、金環まであと5分、絶望である。雨雲は、去る気配もなく強い雨が降り続く、もう諦め気分、隣の方は、機材を片付けて部屋の日食中継TVを見ている。ところが金環8



双眼鏡での欠けた太陽



木漏れ日



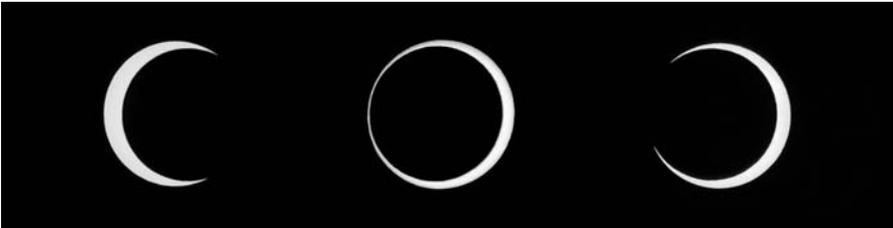
多重撮影：11h00m～14h00m  
5分間隔

## ☆・モルディブ金環日食・☆

分もたった頃、突然、急に空が明るくなり、雲が割れて太陽が顔を出したのである。オー肉眼でリングになった太陽がよく見える。あわててシートなど取り除いて撮影体制に入るが思うどおりに行かない、取りあえず、動画でシャッターを切っておく、静止画を撮影する頃には、金環が終わっていた。もちろん金環の木漏れ日や多重撮影は歯抜けでガッカリ、でも見られただけでもよかったし、少しは撮影できた。長い日食観測の中でこういうときもある。その後天気はよくなり、気を取り直し最後まで一応撮影していた。終了後すぐシャワーを浴び、急いで機材をスーツケースに入れ仮眠した。今夜の夜行便でここを離れるからである。

夕食をとろうとフロントに行くと珍しい人と出会う、天文ガイドの写真家の大田原氏である。天ガは昨夜7人できて、西の端のサンセットがよく見える場所で観測したが、金環はほとんど見えなかったという。私達は、島の北の端だがそれほど離れた距離でなく、少しは見えたということは、ラッキーであった。ここで知り合った人達からの見送りをうけ、23時25分マーレ国際空港を離陸した。シンガポールのチャンギ国際空港には翌朝7時に着陸、連絡が悪くトランジットの時間が17時間もあるので無料のトランジット市内観光バスに申し込む、28人中日本人は2人だけで、案内説明は英語であった。空港でまた嗟嗟野高校生と合流したが、疲れきった生徒が多くベンチで寝ている。1時10分離陸して、関西空港に17日の8時に着いた。

次の日食は7月11日の南太平洋での皆既日食、コロナとモアイどんな日食になるか楽しみです。皆さんもいかがでしょうか！



金環日食 2010.1.15 12h14m、12h30m、12h32m  
左右の画像は、FC60mm、中央 ED77mm望遠鏡  
EOS40D, EOSX3、黒い月が小さいのが分かります